



家庭版

発行 倉敷市教育委員会
編集 生涯学習課
426-3845

3月



「子どもたちを被害者にも加害者にもしないために」後編

令和五年十月二十四日に、倉敷市青少年を育てる会指導者・倉敷市少年補導委員合同研修会で実施した講演会の要旨を三回に分けてお届けします。講師は、おかやま犯罪被害者サポートファミリーズ 理事の市原千代子（いちばら・ちよこ）先生です。

●小さな命の手とはじめの問題

手のことについて、子どもたちに話します。「私は、自分の子ども達といっぱい手をつなぎ、大切に育てました。皆さんは、大人になるうち、誰か好きな人に出会い、その人と手をつなぎ、いつか結婚して、その先の新しい小さな命の手につながっていくと思います。でも、皆さんのその手は、圭司の命を奪ったような、暴力を振るうことができない手だということも知って欲しいです。私も、この手で車を運転します。皆さんも大人になると、免許を取り、運転することがあると思います。交通事故により、誰かの命を奪ってしまったりけがをさせてしまったりすると、加害者になってしまう。それを知っておいて欲しいです。」

は二つの物語があるそうです。一つめは、はじめを受け、自ら命を絶ってしまう子どもがいること。これは本心に心が痛みます。もう一つは、「〇〇くん、△△ちゃんが、私をいじめたから、死にます」と、加害者として、突然名指しされてしまう子どもがいることです。加害者と名指しされた子は「彼らがいじめていたから、あの子は自殺した」と言われ、家から出られなくなったり、学校に行けなくなったり、さらにある事件では、顔や名前がインターネット上に流され、全国から様々なことを言われてしまったこともあると聞きました。

●大人が伝えたいこと

私はそれを聞いて心が痛み、考えました。私たち大人が、子どもたちにきちんと伝えてないことがあるのではないかと。だから私は二つのことを伝えます。

第一には、誰かに相談して欲しいということ。辛いこと悲しいことが多いと、生きていたくないと思うかもしれません。そのときは、周りの人に相談して欲しいです。心配迷惑をかけたくなって相談しない子どもも多いのですが、だからこそ、勇気を出して相談して欲しいです。周りに相談できない場合は、ネットで「はじめ」「電話相談」などで検索すると相談電話の番号が出てきますから、「助けて」って言って欲しいです。私は、圭司が「助けて」って手を伸ばしてくれていたなら、その手を握り返してやりたかった。そうすれば、こうならなかったかもしれないって、今でも自分を責めています。だから、勇気を出して相談して欲しいです。

もう一つは、何げない行為が、誰かの心を傷つけ、はじめと感じてしまう人がいるかもしれないということ。はじめと感じた人が自ら命を絶った場合、はじめの加害者になってしまうことを、知っておいて欲しいです。

事件の後、多くの人が心配や気遣いで、「辛かったね」「大変だったね」など、たくさん声をかけてくれました。でも、その度に私の心が叫びました。「あなたが想像している辛さではない、大変さではない」と。圭司を失った辛さ、悲しさは、想像を絶するものがありました。また、「頑張る」と言われると、「これ以上何を頑張れっていうの」と、やはり心が叫びました。そのような言葉を素直に受け入れられない自分を責める気持ちもあり、人と関わるのを避け、遠くに買い物に行きました。

●被害者が抱える思い

私の娘の話をします。娘は、中学校の卒業式の日、兄の事件に遭いました。犯罪被害に遭うと、様々な問題や思いを抱えます。

大人の私はそうでしたが、娘は地元で過ごすしかなく、四月から新しい高校に通い始めました。自分が抱えている問題や思いを、新しい友達に決して悟られたくなかったと思います。だから、誰にも言わず頑張って学校に行きました。でも、だんだん抱えきれなくなり、反抗的な態度や問題行動をとることが多くなりました。すると、同級生たちは、「あの子変わってる」と、はじめをするようになりました。無視され、孤立してお弁当も一人で食べていたし、先生からも問題児として扱われました。「遅刻する、忘れ物が多い、反抗的な態度をとる」と、先生から何度も電話がありました。「態度が悪く、きつく注意したら、学校からいなくなった」という連絡



倉敷市立連島南小学校
5年 國島優海 (令和4年度)

「連南50音『え』」(墨、色鉛筆、貼り絵)
「え」と墨で大きく書いて、その周りに「え」から始まるもので、ぼくが好きな電車の「えき」や「SL」などの絵をはりました。

を受けて、初めて私は、暴行事件で兄を亡くしていることを先生に伝えました。先生は驚き、急いで家まで来てくれましたが、傷ついた娘の心に繋がることはできませんでした。

娘は私に言いました。「死んでしまった圭司より、生きてる私を見て」と。一生懸命見ているつもりでしたが、仕事や家事、裁判のことなど、しなければいけないことがありました。また、どうしても辛くて、圭司を思っでこっそり泣いてしまう私もいました。娘は、そんな私を許せなかったんだと思います。だから「生きてる私を見て」と言いました。私が「どんなに頑張っても、お母さんは二十四時間あなたを見ることはできないよ」と言つと、娘は「もっと見て、もっと私を見て」と言いました。家庭でも学校でも安心できず、辛かったん

だと思っています。高校は中退しました。現在、娘は、結婚し二人の子のお母さんとして、仕事にも行きながら頑張っています。今は、幸せに生きていますが、それまで長い時間がかかりました。

皆さんの周りに犯罪被害者はいなくても、大切な人を亡くした人はいるかもしれません。その友達か、辛さ悲しさを抱えきれず、問題行動に出るかもしれないということを覚えて欲しいです。娘のように、辛く悲しい思いをしている子を、いじめの対象にしないであげて欲しいです。

●最後に知ってほしいこと

最後に、あと二つ、知って欲しいことを伝えたいです。一つ目は、被害者になるのは避けられないことがあるけれど、加害者になるのは避けられるのではないかとということ。毎日、事件や事故が報道されています。中でも、通り魔事件や交通事故で、被害者が出たと聞いたときは特に気になります。これらの事件や事故の被害者の多くは、加害者と認識がなく、偶然そこにいただけだと思います。残念ですが、被害者になることはあるかもしれません。

でも、加害者の場合、自分が気を付けて

いれば、被害を出さずに済む場合がありま。交通事故の場合、無免許運転、飲酒運転、スピードを出す、煽り運転、スマホのながら運転など、してはいけないことです。また、眠気があるときは、運転を代わってもらう、休憩するなどできるはず。加害者がいなければ被害者は生まれません。

そして、最後に伝えたいことです。生きていけると、辛いことや悲しいことなどたくさんあると思います。でも、私は、生きてさえいれば、少し先には必ずいいことやうれいことがあると思います。私は圭司が亡くなった後、あれほど辛く悲しく苦しかったのに、やっぱり、いいことやうれいことがありました。今日、私が皆さんにお会いできたことも、とてもうれしいことです。今がどんなに辛く悲しく苦しくしんどくても、皆さんは与えられた命を、生き抜いて欲しいと思います。ありがとうございます。これで、命の授業を終わります。

●女子少年院での講演活動

私は、二か所の女子少年院に十年以上行って、講演と、グループワークや個別面談をしています。講演で、私が二十三年間、加害者に関わり続けている話もしています。

私は、少年院を出た方がその後どうなっているのか、全く知りません。でも、近畿地

区で、社会福祉事務所の支援員をしている女性から聞いた話を紹介します。

四年ほど前に少年院を出た女の子の話です。退院後、妊娠したものの、シングルで育てることを決め、支援員と繋がったそうです。家庭訪問に行くと、部屋の壁に、「じぶんにおきあう」と、彼女が書いた色紙が貼ってありました。詳しく聞いたところ、「少年院に来てくれた被害者の人が言われた言葉で、すごく自分の中に残っていて、原点だと思っているので、目標として目につくところに貼っている」と言ったそうです。そして「漢字で書きたいのに、学校にちゃんとして行かないから書けない」と言われ、漢字を教えました。すると、漢字でも書いて、二つとも壁に貼ったそうです。女の子は「被害者の人は、私たち加害者を怖いと思っている感じではなく、普通に来て、色紙の言葉を言うてくれた。私は保護司や他の人に、『罪に向き合え、反省しろ』と言われて、上から視線を感じがしたけど、この人は目が全然違った」と言ったそうです。これを聞き、私の顔が浮かんで「市原さんだと思って、伝えたかった」と教えてくれました。私は、少年院退院後の様子を聞くことはできないのですが、こういう話を聞くと、行ってよかったと思います。ありがとうございます。(終わり)